

スーパーマーケット販売統計調査資料

10月実績 速報版(パネル 270)

9月実績 確報版(パネル 270)

(2020年11月20日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーパー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
		一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類	
非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具			
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2020年11月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2020年10月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	92,242,236	100.0%	104.4%	103.6%
食品合計	83,672,144	90.7%	104.4%	103.5%
生鮮3部門合計	32,775,826	35.5%	106.8%	105.8%
青果	13,465,810	14.6%	108.1%	107.0%
水産	8,008,233	8.7%	105.9%	104.8%
畜産	11,301,783	12.3%	105.9%	105.0%
惣菜	9,265,498	10.0%	102.8%	101.6%
日配	18,202,543	19.7%	103.1%	102.6%
一般食品	23,428,277	25.4%	102.9%	101.9%
非食品	6,340,928	6.9%	107.0%	105.2%
その他	2,229,215	2.4%	96.6%	97.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,652,467	43	107.3%	106.6%
関東地方	34,390,178	73	104.0%	103.2%
中部地方	11,463,356	53	106.5%	104.4%
近畿地方	19,507,427	44	101.7%	102.0%
中国・四国地方	9,343,792	34	106.2%	104.2%
九州・沖縄地方	4,885,015	23	102.7%	102.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	674,271	47	101.4%	103.6%
4~10店舗	4,386,729	79	101.5%	101.9%
11~25店舗	10,205,718	57	105.5%	103.6%
26~50店舗	15,976,640	43	104.9%	105.4%
51店舗以上	60,998,878	44	104.3%	103.2%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	90,423,843
総店舗数 (店舗)	8,015	店舗平均月商 (万円)	11,509
総売場面積 (㎡)	13,396,721	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.9

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2020年11月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2020年9月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	92,167,515	100.0%	102.1%	100.9%
食品合計	83,966,517	91.1%	103.4%	102.2%
生鮮3部門合計	32,543,645	35.3%	106.9%	105.6%
青果	13,780,527	15.0%	107.9%	106.6%
水産	7,980,494	8.7%	105.5%	104.3%
畜産	10,782,624	11.7%	106.7%	105.5%
惣菜	9,358,034	10.2%	100.8%	99.4%
日配	18,351,370	19.9%	103.7%	102.7%
一般食品	23,713,469	25.7%	99.6%	98.5%
非食品	5,876,313	6.4%	89.3%	89.5%
その他	2,324,733	2.5%	96.6%	96.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,669,910	43	101.8%	101.1%
関東地方	34,344,294	73	102.1%	101.1%
中部地方	11,442,113	53	103.9%	101.5%
近畿地方	19,614,701	44	102.0%	101.2%
中国・四国地方	9,351,165	34	104.2%	101.9%
九州・沖縄地方	4,745,333	23	96.6%	96.0%

保有店舗数別集計

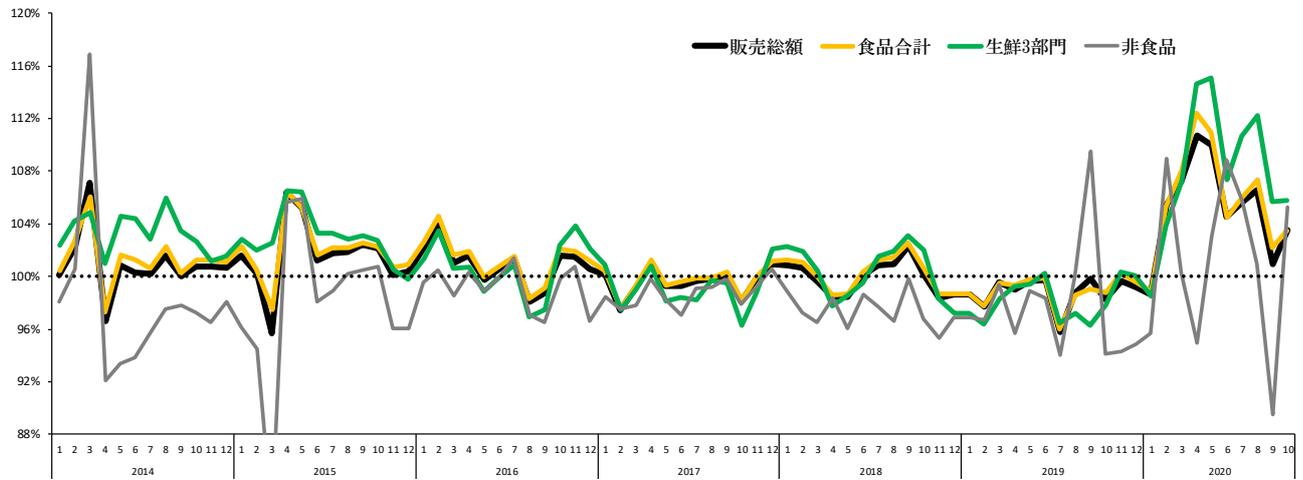
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	663,557	47	98.2%	100.0%
4~10店舗	4,385,567	79	100.3%	101.0%
11~25店舗	10,031,740	57	102.6%	100.9%
26~50店舗	15,951,985	43	101.8%	101.6%
51店舗以上	61,134,666	44	102.2%	100.8%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	90,183,497	
総店舗数 (店舗)	8,013	店舗平均月商 (万円)	11,502	
総売場面積 (㎡)	13,389,770	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.9	

※売上高は税抜金額

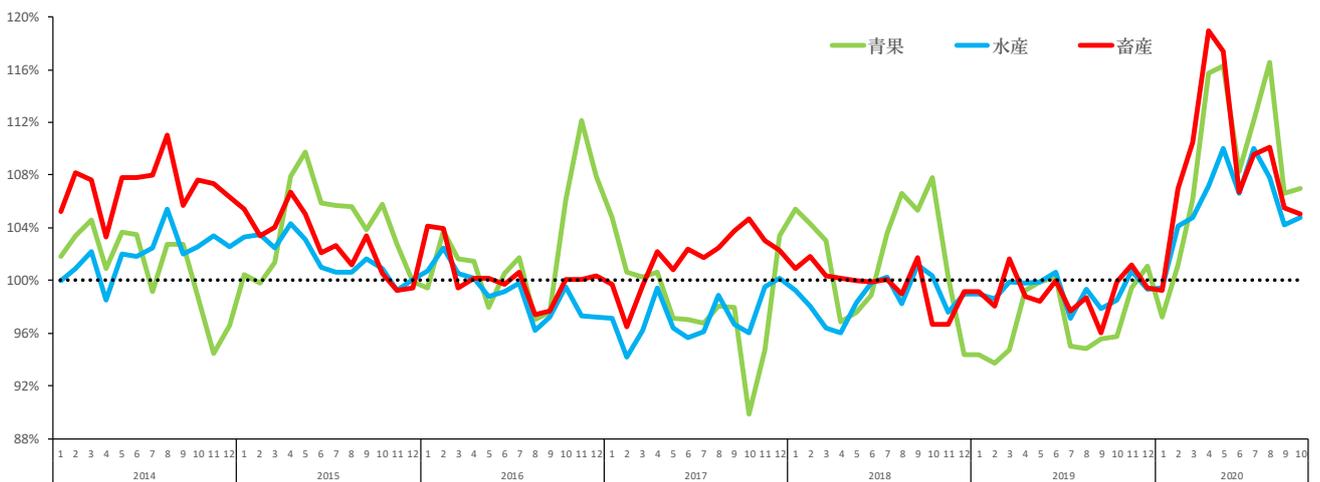
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2014年1月～

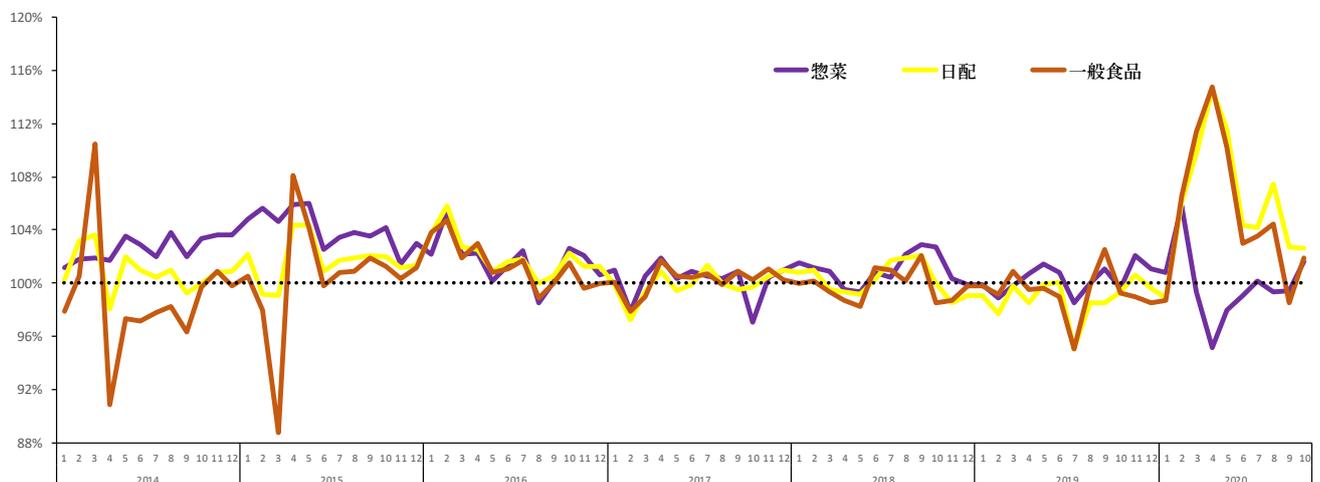
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2020年10月実績は速報版

2020年10月エリア別気候状況

気温の特徴：北日本で高かった

上旬：北・西日本と沖縄・奄美で高かった。東日本では平年並だった。

中旬：沖縄・奄美で高かった。北・東・西日本では平年並だった。

下旬：北日本で高かった。東・西日本と沖縄・奄美では平年並だった。

2019年10月との比較：上旬と下旬にかけて、特に太平洋側を中心に前年よりかなり気温が低かった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2020年10月			2019年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	0.8	0.5	0.9	1.9	-0.2	2.7	-1.1	0.7	-1.8
太平洋側	0.6	0.4	1.1	2.3	-0.1	2.4	-1.7	0.5	-1.3
東日本 日本海側	0.6	0.1	-0.1	2.0	0.5	2.0	-1.4	-0.4	-2.1
太平洋側	0.0	-0.2	-0.1	2.9	1.9	1.9	-2.9	-2.1	-2.0
西日本 日本海側	0.7	-0.1	-0.2	2.3	0.8	1.9	-1.6	-0.9	-2.1
太平洋側	0.4	-0.3	-0.1	2.5	1.7	1.8	-2.1	-2.0	-1.9
沖縄・奄美	0.5	0.8	-0.1	0.8	0.4	0.5	-0.3	0.4	-0.6



日照時間の特徴：北日本と東日本太平洋側で少なく、西日本と沖縄・奄美が多かった

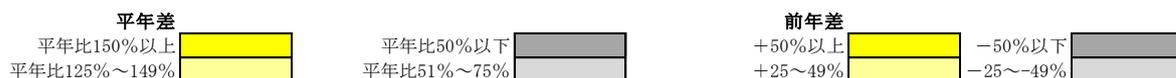
上旬：北・東日本でかなり少なかった。一方、沖縄・奄美が多かった。

中旬：西日本日本海側が多かった。一方、東日本太平洋側で少なかった。

下旬：、西日本日本海側でかなり多く、東日本と西日本太平洋側が多かった。一方、北日本日本海側で少なかった。

2019年10月との比較：上旬はやや少なく、中旬以降は前年よりやや多くなった地域が多かった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2020年10月			2019年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	70	105	94	99	101	117	-29	4	-23
太平洋側	66	96	104	101	90	89	-35	6	15
東日本 日本海側	66	103	109	109	64	76	-43	39	33
太平洋側	70	74	120	142	46	66	-72	28	54
西日本 日本海側	104	111	124	107	75	98	-3	36	26
太平洋側	105	97	129	119	75	83	-14	22	46
沖縄・奄美	119	98	106	140	66	122	-21	32	-16



降水量の特徴：降水量は東日本日本海側でかなり少なく、東・西日本太平洋側が多かった

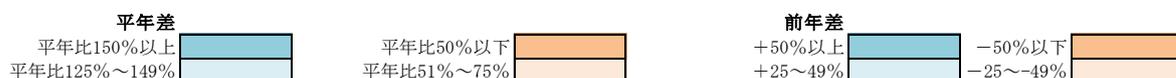
上旬：東日本太平洋側でかなり多く、西日本太平洋側が多かった。一方、西日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なかった。

中旬：東日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側で少なかった。

下旬：西日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本太平洋側、沖縄・奄美が多かった。

2019年10月との比較：上旬は太平洋側でやや多く、中旬は全国的にかなり少ない降水量となった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2020年10月			2019年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	99	60	104	125	194	62	-26	-134	42
太平洋側	83	91	87	188	523	147	-105	-432	-60
東日本 日本海側	48	20	129	117	267	89	-69	-247	40
太平洋側	220	74	66	39	677	363	181	-603	-297
西日本 日本海側	23	41	243	50	189	205	-27	-148	38
太平洋側	131	47	209	75	133	281	56	-86	-72
沖縄・奄美	13	68	161	22	74	54	-9	-6	107



気象庁報道資料「10月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2020年11月調査結果（10月実績）
（2020年11月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

11月調査（10月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに小幅に改善

10月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から+2.1の45.1、見通し判断は前月から+2.1の39.6となり、共に前月から小幅に改善した。

経営動向調査では、感染拡大防止意識による来店頻度の低下により来客数DIが低迷しているが、客単価DIが大幅なプラスとなっており、売上高DI、収益DI共に前月に比べプラス幅が拡大している。

カテゴリ動向調査では、堅調な家庭内消費需要が続いているなか、すべてのDIがプラス圏となっており、なかでも生鮮品のDIは堅調な推移が続いている。なかでも気温が低下し鍋物商材など季節商材の動きがよかった。ただし一部商品には、前年の消費税率引き上げ後の反動減や台風による駆け込み需要などからの影響を受けた。運動会中止やイベント中止の影響を受けている惣菜DIだが、やや持ち直しの動きがみられた。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、景気判断DIが小幅に改善をみせた。そのほかのDIは前月とほぼ同水準で推移している。（長期傾向についてはp11参照）

GOTOトラベルやイートなどの消費振興策により、一部には消費者行動の変化を指摘するコメントもみられた一方で、引き続き家庭内消費需要は堅調な状況が続いている。感染拡大の収束時期が見通せない状況が続いており、年末年始は自宅で過ごす消費者が多くなると予想されている。今後も感染状況により刻々と変化する消費者ニーズに対応すると取り組みを期待したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：45.1 (+2.1) 前月：43.0	消費者購買意欲DI 当月：45.9 (+1.2) 前月：44.7	周辺地域 競合状況DI 当月：43.2 (-0.6) 前月：43.8	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：43.0 (+0.1) 前月：42.9
--------------------------------------------	-----------------------------------------------	-------------------------------------------------	---------------------------------------------------

見通し判断

景気判断DI 当月：39.6 (+2.1) 前月：37.5	消費者購買意欲DI 当月：42.1 (+0.5) 前月：41.6	周辺地域 競合状況DI 当月：42.9 (+0.1) 前月：42.8	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：40.4 (-0.1) 前月：40.5
--------------------------------------------	-----------------------------------------------	-------------------------------------------------	---------------------------------------------------

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：9.9 (+8.5) 前月：1.4	客単価DI 当月：20.5 (-0.2) 前月：20.7	来客数DI 当月：-15.2 (+5.1) 前月：-20.3	
収益DI 当月：13.1 (+6.0) 前月：7.1	販売価格DI 当月：8.0 (+1.9) 前月：6.1	生鮮品仕入原価DI 当月：9.6 (-1.4) 前月：11.0	食品仕入原価DI 当月：2.8 (0.0) 前月：2.8

カテゴリ動向

青果DI 当月：18.7 (+3.6) 前月：15.1	水産DI 当月：12.5 (+6.9) 前月：5.6	畜産DI 当月：14.2 (+2.0) 前月：12.2	
惣菜DI 当月：0.2 (+9.8) 前月：-9.6	日配DI 当月：8.7 (+1.7) 前月：7.0	一般食品DI 当月：3.4 (+10.9) 前月：-7.5	非食品DI 当月：13.3 (+23.2) 前月：-9.9

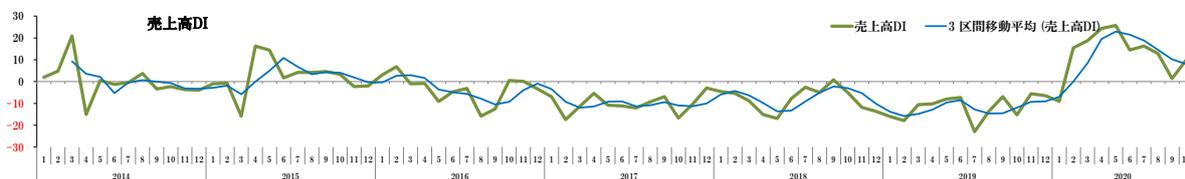
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月大幅に上昇

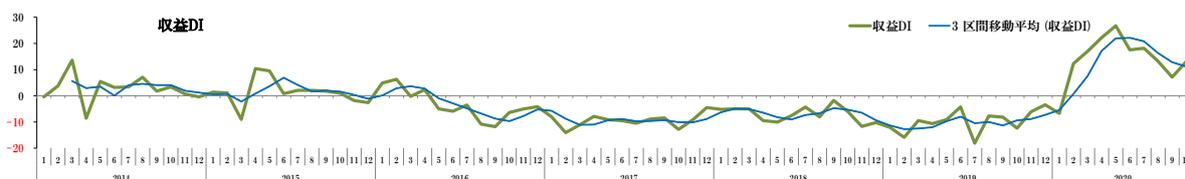
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	8.2	27.9	21.3	35.5	7.1	1.4
売上高 (当月)	5.1	18.6	19.9	44.2	12.2	9.9



2. 収益DI

当月大幅に上昇し、二桁プラス水準を回復

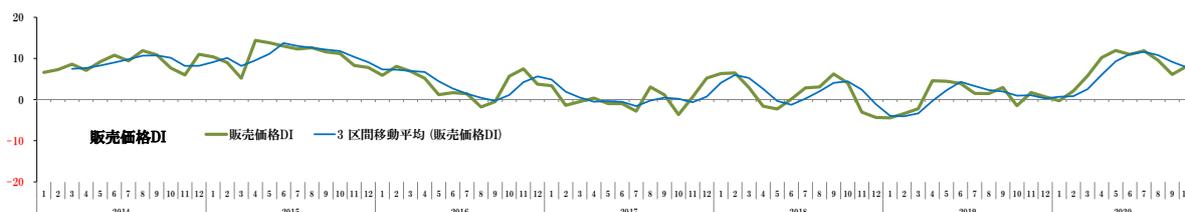
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	6.6	18.1	29.1	32.4	13.7	7.1
収益 (当月)	3.9	10.5	30.1	40.5	15.0	13.1



3. 販売価格DI

当月小幅に上昇し、プラス圏での推移

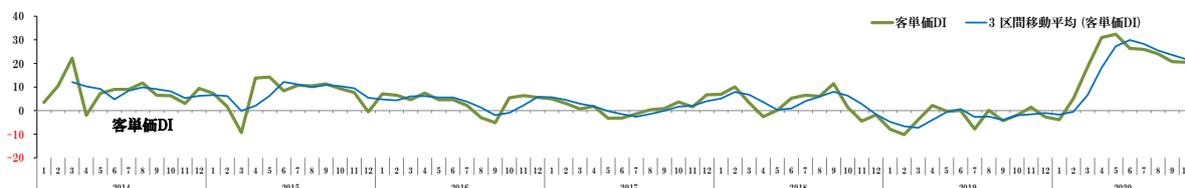
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.5	7.6	62.0	26.6	3.3	6.1
販売価格 (当月)	0.6	3.8	60.3	33.3	1.9	8.0



4. 客単価DI

大幅なプラス水準での推移が続く

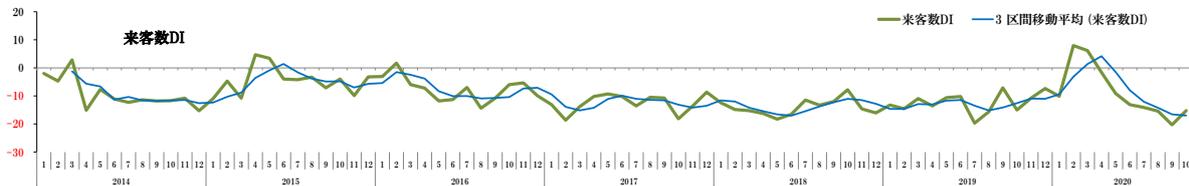
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.5	6.6	20.3	54.4	18.1	20.7
客単価 (当月)	0.0	5.1	23.1	56.4	15.4	20.5



5. 来客数 DI

ややマイナス幅を縮小も低迷が続く

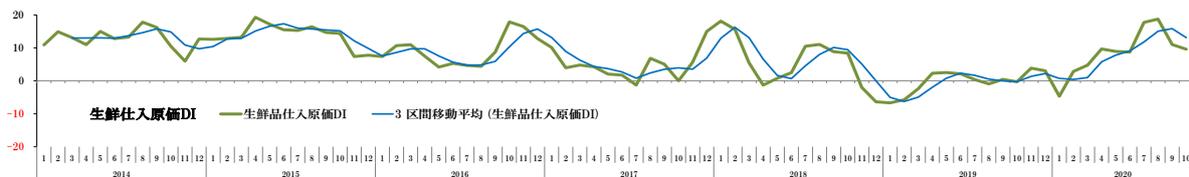
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	20.5	50.8	18.9	8.6	1.1	-20.3
来客数 (当月)	17.3	44.9	21.8	13.5	2.6	-15.2



6. 生鮮仕入原価 DI

小幅にプラス幅を縮小も、5か月連続でプラス圏を維持

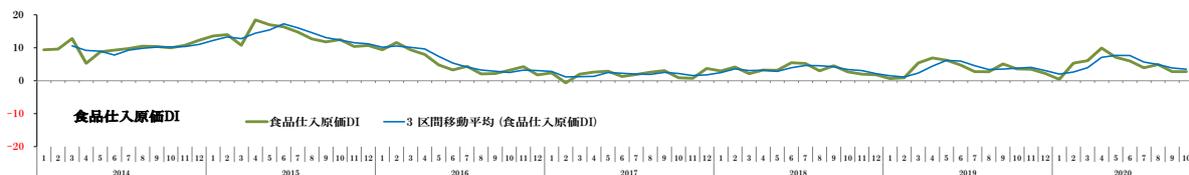
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.0	5.6	50.8	37.4	6.1	11.0
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	3.3	58.9	33.8	4.0	9.6



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.7	6.7	73.3	15.6	2.8	2.8
食品仕入原価 (当月)	2.0	3.9	76.5	16.3	1.3	2.8

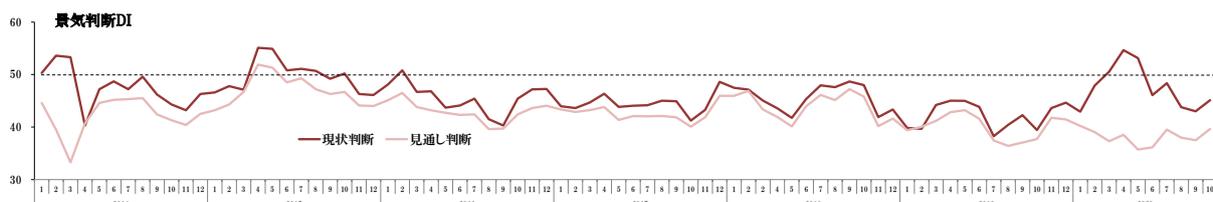


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通し判断共に小幅に改善

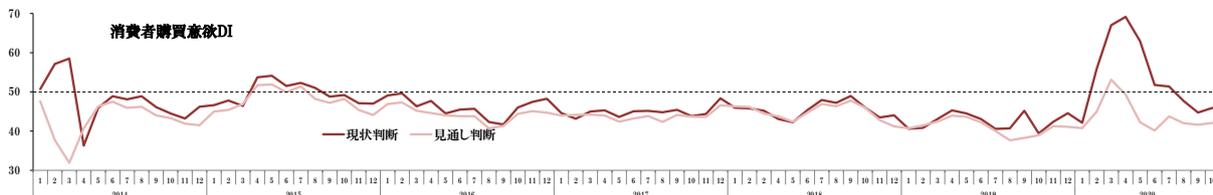
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	2.7	33.3	53.2	10.8	0.0	43.0
【現状】景気判断 (当月)	2.5	30.2	52.2	14.5	0.6	45.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	5.4	44.6	44.6	5.4	0.0	37.5
【見通し】景気判断 (当月)	2.5	44.0	45.9	7.5	0.0	39.6



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し判断共に小幅に改善

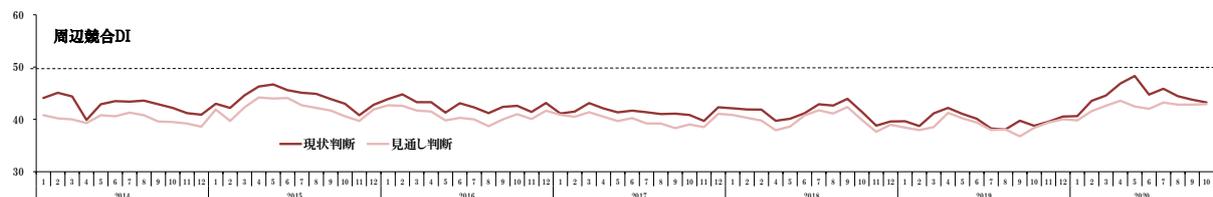
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.5	34.1	51.9	13.0	0.5	44.7
【現状】購買意欲 (当月)	1.3	28.3	56.6	13.2	0.6	45.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	3.2	37.3	49.7	9.2	0.5	41.6
【見通し】購買意欲 (当月)	1.3	37.3	53.2	8.2	0.0	42.1



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しとも前月水準で推移

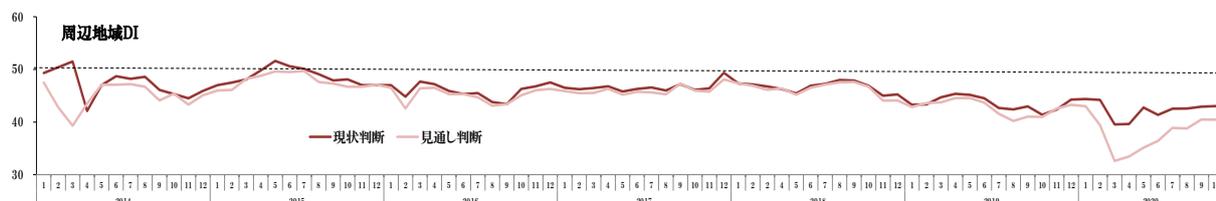
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.2	22.2	70.8	3.8	0.0	43.8
【現状】競合状況 (当月)	2.5	23.9	71.7	1.9	0.0	43.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.8	24.9	67.6	3.8	0.0	42.8
【見通し】競合状況 (当月)	2.5	24.5	71.7	1.3	0.0	42.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しとも前月水準で推移

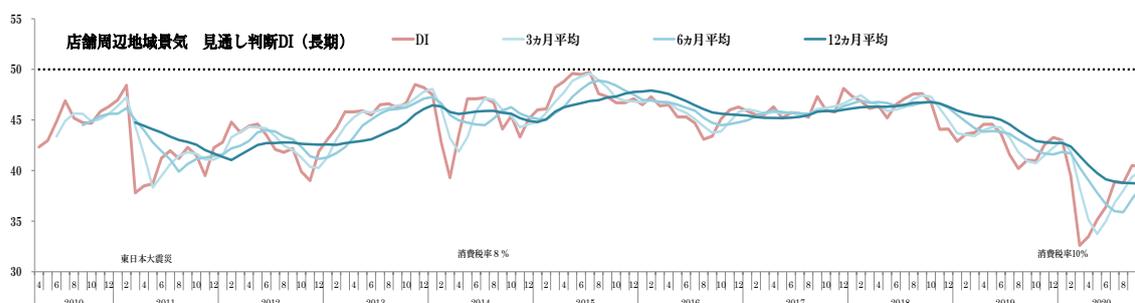
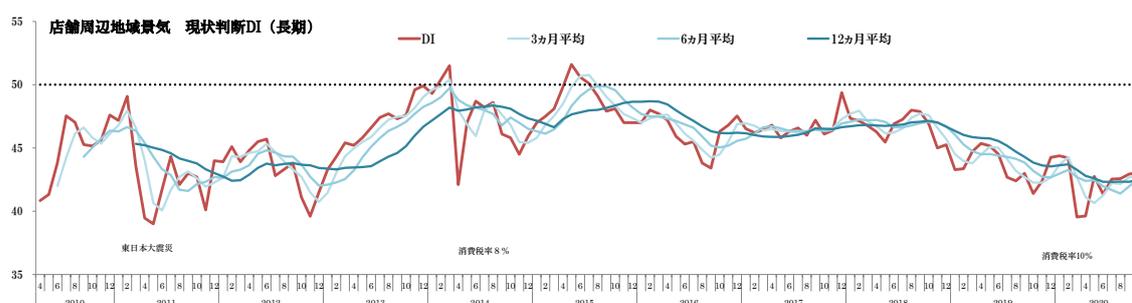
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	29.9	65.2	3.8	0.0	42.9
【現状】地域景気 (当月)	1.9	28.5	65.2	4.4	0.0	43.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.7	35.9	58.2	3.3	0.0	40.5
【見通し】地域景気 (当月)	1.3	36.9	60.5	1.3	0.0	40.4



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

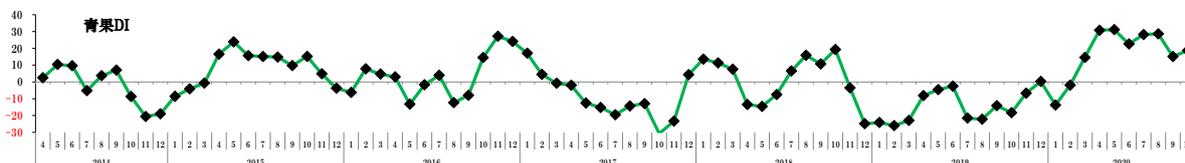
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月に大幅に悪化したものの、5月から持ち直しの動きが続いており、10月以降は単月DIが各移動平均線の上昇で推移している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：18.7（好調）

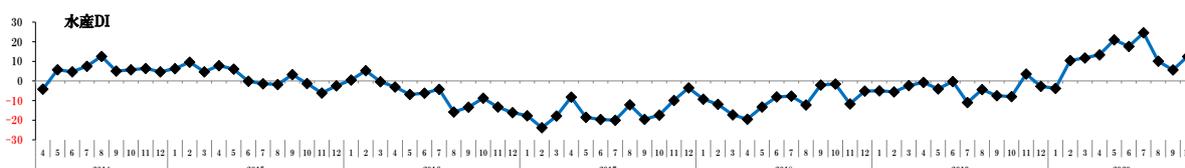
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	3.4	13.7	17.7	49.1	16.0	15.1
青果（当月）	3.9	8.4	20.1	44.2	23.4	18.7



引き続き堅調な家庭内調理需要を背景にじゃがいもやねぎ類など土物類の好調が続いている。前年より気温が低く推移したことで白菜やキノコ類など鍋関連の食材の動きがよかった。一方で前年好調だったトマトや洋菜などのサラダ商材は動きが悪かった。果物では前年不作だった柿やブドウが好調となっているが、みかんやリンゴなどは高値で推移しており好不調まちまちとなった。

2. 水産DI：12.5（好調）

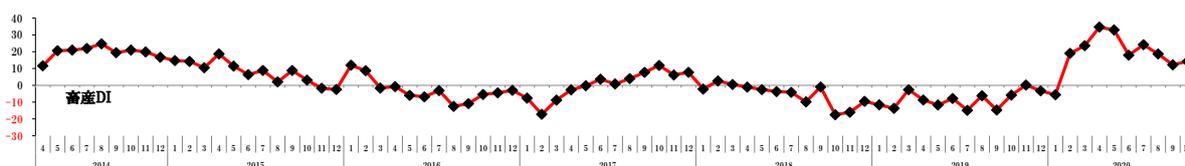
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	6.8	20.3	29.4	30.5	13.0	5.6
水産（当月）	5.3	11.2	24.3	46.7	12.5	12.5



旬であるさんま、秋鮭が不漁で相場が高騰しており不振となっているが、引き続き堅調な家庭内消費需要により好調となっている。まぐろや鯛などの高級魚の刺身類やうなぎ、塩干類が好調に推移した。前年に比べ気温が低く推移したことで鍋関連商材の動きがよく、外食需要が減少しているブリやハマチ、タイなどの養殖魚が相場安を追い風に好調となった。ホタテ貝柱も相場安により好調となった。

3. 畜産DI：14.2（好調）

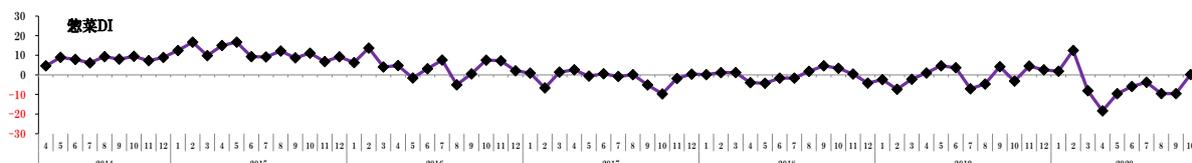
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	5.6	13.5	23.0	42.1	15.7	12.2
畜産（当月）	3.9	11.1	26.1	41.8	17.0	14.2



一部に外食自粛に変化の兆しを指摘し、牛肉の好調に陰りを指摘するコメントもみられているが、一般的には家庭での調理用食材への需要は堅調に推移しており好調となった。週末を中心にステーキや焼肉用の高単価牛肉の好調が継続し、気温の低下とともに高まった鍋需要により鶏肉が好調となった。豚肉は、国産相場高の影響で伸び悩み、輸入品の販売を強化するなど対応している店舗が多い。

4. 惣菜DI：0.2（やや好調）

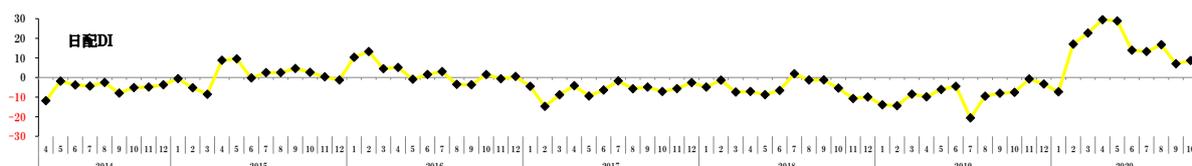
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	13.1	36.6	29.1	17.7	3.4	-9.6
惣菜（当月）	8.6	24.3	31.6	28.9	6.6	0.2



イベント中止や家庭内調理機会の増加による中食需要の低下により不振傾向が続いていたが、回復を指摘するコメントもみられている。ばら売り販売中止の影響で揚げ物類は伸び悩んでいるが、焼き物が好調となった店舗が多かった。気温の低下により麺類などホット惣菜、家飲み用のおつまみ向け惣菜は堅調に推移した。

5. 日配DI：8.7（やや好調）

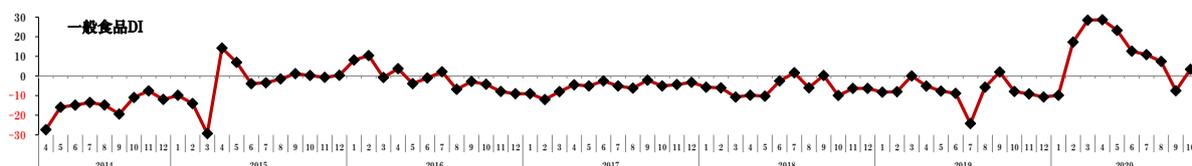
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.2	22.5	29.2	37.1	9.0	7.0
日配（当月）	5.2	14.4	30.1	41.2	9.2	8.7



堅調な家庭内消費需要を背景にチルド商品、冷凍食品では好調な動向が継続している。気温が低下したことでホット商材やおでん・鍋商材、キムチや漬物などの発酵食品などの和日配や機能性ヨーグルトの動きがよくなった。一方で、アイスや飲料は動きが悪かった。供給の回復したバター、チーズなどの乳製品は好調が継続している。デザート類やデザート調剤商材、家飲みのつまみとなる商品も好調となった。前年台風接近による買いだめのあった地域ではパン類に反動減もみられた。

6. 一般食品：3.4（やや好調）

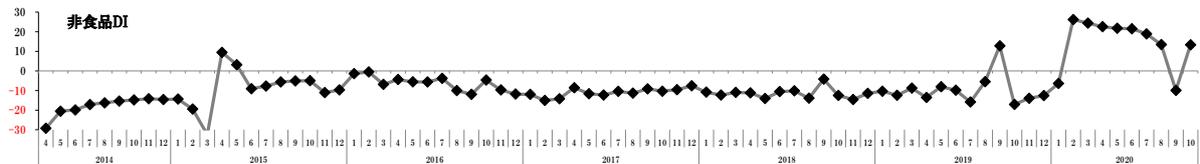
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	12.3	34.1	30.7	17.3	5.6	-7.5
一般食品（当月）	5.8	25.3	27.9	31.2	9.7	3.4



堅調な家庭内消費需要を背景に新米や調味料、手作り用商材が引き続き好調となっている。前年との気温差により飲料は伸びやんだが、スープ類や鍋つゆなどが好調となった。酒税改定によりビールが好調となった。前年の台風での駆け込み需要の反動でレトルト、カップ麺、缶詰、パスタやシリアルなど保存がきく商品には反動減がみられた。

7. 非食品DI：13.3（好調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	23.0	27.0	23.6	19.5	6.9	-9.9
非食品（当月）	6.7	12.0	28.0	28.0	25.3	13.3



前年消費税引き上げの反動があった翌年にあたり好調となった。マスクやハンドソープ、除菌用アルコール商品などが引き続き好調が続いているほか、家庭用品全般が好調となっている。一方でタバコ類は増税影響での大幅減となった。前年台風で買いため需要のあった電池やガスコンロには反動減がみられた。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2020年11月調査（10月実績）キーワードTOP3

1. 家庭内消費需要堅調（客単価上昇）
2. 気温低下（季節商材好調）
3. 前年からの反動（消費税率・台風・プレミアム商品券）

（参考）2019年11月調査（10月実績）キーワードTOP3

1. 台風の影響
2. 気温が高い
3. 消費税率引き上げの影響

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

10月実績速報版 159社
 9月実績確報版 186社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp